企業理念

私たちの使命

地域のみなさまの夢を育て、質の高いサービスを提供します。

「ぬましん」は、地域に密着した金融機関として、みなさまに充実したサービスを提供していきます。
そして、地域のみなさまの夢をかたちにするお手伝いをしていきます。

私たちの精神

お客さまとのふれあいを大切にし、チャレンジ精神で柔軟に対応します。

「ぬましん」は、お客さまとの共感を最も大切にします。
そして、お客さまのニーズをしっかりと把握し、積極的に応えていきます。

私たちの姿勢

誇りとロマンを求め、魅力あふれる企業をつくります。

「ぬましん」の職員は、いつもお客さまに信頼されているというプロフェッショナルの誇りを持っています。
そして、仕事にロマンと広がりを求め、働きがいのあるより良い企業をつくっていきます。

ぬましんは、地域のみなさまとともに
地域経済の発展に積極的に取り組んでおります。

NUMAZU SHINKIN

コーポレートマークのコンセプト

当金庫のコーポレートマークは人が力強く歩く姿をシンボライズしたもので、地域とともに発展していく経営姿勢や人のもつ温かさをフリーハンドで表しています。ぬましんレッドは情熱を、ぬましんブルーは調和をイメージしております。これからも、皆さまから信頼されるパートナーとして私どもを知っていただければ幸いです。

2023年度 ディスクロージャー誌 テーマカラー

ぬましんブルー	ぬましんレッド
調和	情熱

2色を融合したグラデーションのパープルで
地域社会とぬましんが“親密になる”

2021年は、調和を意味する「ぬましんブルー」、
2022年は、情熱を示した「ぬましんレッド」、
2023年は、その調和と情熱を融合した
グラデーションの「パープル」を使用しました。
コーポレートマークのコンセプトでもある、
“いっしょに歩いてゆきたいね…”をグラデーションを用い、
時代や環境の変化に柔軟に対応していく姿を
表現しております。

CONTENTS

Introduction

企業理念 01
目次 02
ごあいさつ 03
新中期経営計画“Flexibility” 04
業績ハイライト 05

地域社会とともに

地域経済活性化への取り組み 07
お客さま満足度向上に向けた取り組み 08
サステナビリティに関する沼津信用金庫の取り組み 09
TOPICS 11
お客さまとともに進化し続けるぬましん 13
まちづくりプラットフォーム ぬましんCOMPASS SHUZENJI 15
「フェンシングのまち沼津」を応援 16
職域サポートサービス「ななつぼし」 17
沼津信用金庫相談センター 18
一般社団法人しんきん成年後見サポート沼津

金融仲介の取り組み

金融仲介機能強化に向けた取り組み 19

経営管理体制

コンプライアンス(法令等遵守)体制 23
マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に係る基本方針 25
リスク管理体制 26
顧客保護体制 27
業務運営方針 28

沼津信用金庫について

役員一覧・沼津信用金庫プロフィール・組織図 29
業務のご案内 30
総代会制度 31

ストリートギャラリー

ストリートギャラリー 33

店舗案内

店舗案内 35
店舗マップ 38

資料編はこちら

「資料編」として当金庫のホームページに掲載しておりますので、閲覧を希望されるお客さまは、下記のウェブサイトからご覧ください。
なお、インターネットの操作が分からないお客さままたはインターネットに接続できる電子機器（パソコン、スマートフォン等）をお持ちでないお客さまは、別途ご案内いたしますので、当金庫職員までご相談ください。

https://www.numashin.co.jp/about/files/disclo_2023_shiryouhen.html

こちらから簡単アクセス▶

提供:沼津市

ごあいさつ

会長　紅野　正裕

理事長　鈴木　俊一

皆さま方には、平素より沼津信用金庫をお引き立ていただきまして、心より感謝を申し上げます。

本年も当金庫に対するご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「沼津信用金庫レポート2023」を作成いたしました。本誌は当金庫の経営方針や業務内容、最近の業績、健全性などについてまとめてあるものです。ご高覧のうえ、当金庫の経営内容につきまして、より一層のご理解を賜れば幸いに存じます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念が徐々に縮小したことで経済活動が再開、ようやく正常な日常生活に戻り始めました。当金庫の営業エリアにおいても人流の活性化が認められ、飲食店などのサービス業も盛況感がコロナ前の状況に戻りつつあります。

一方で、顕在化した地政学リスクや原材料高などによる世界的なインフレにより、当地域においても特に食料品や日用品が継続的に価格上昇し、消費マインドや企業収益に悪影響を与えました。このような環境を踏まえて当金庫では、政府の要請による「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に基づいた資金繰り支援を通じて地域経済の安定に資することを活動の主力としてきました。今後、「国連携新型コロナウイルス感染症対応貸出金」の返済などが本格化いたします。取引先事業所へのサポート体制を強化するとともに、当地区における景気回復の下支えができるよう引続き注力してまいります。

当金庫の取り組みのひとつに、産官学金連携による街づくりプラットフォームを目指した「COMPASS」の展開があります。2023年1月、更なる拡充を目指して3拠点目となる「ぬましんCOMPASS SHUZENJI（修善寺）」が伊豆箱根鉄道修善寺駅前にオープンしました。また、「ぬましん未来応援ファンド」の組成や人材紹介業務の許認可も取得するなど、地域の課題や要請に応えていくためのシステムや体制整備を進めております。

同時に店舗施策として、窓口支援システムの全店導入と店舗ローカウンター化の展開を進めました。この効果として相談業務の充実が図られることから、当金庫のビジョンである「お客さま時間の拡充」を深化させていく所存です。

2023年度は新中期経営計画“Flexibility”がスタートします。創立70周年を経た当金庫では、地域の皆さまとともに次の80周年、その後の100周年へ向けて歩み始める重要な年度であると考えております。これからも役職員一同、お客さまと地域に軸足を置いた業務運営に努めてまいりますので、更なるご支援とご愛顧をお願い申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝を心からお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。

なお、「沼津信用金庫レポート 2023〈資料編〉」につきましては、当金庫のホームページ上に掲載しておりますので、お手数ではございますがご確認していただければ幸いに存じます。

2023年7月

理事長　鈴木　俊一

新中期経営計画 “Flexibility”（2023年4月～2026年3月）

新中期経営計画 “Flexibility”に込めた思い

私たちは、「時代の変化」「環境の変化」にしなやかに対応し、地域・お客さま・職員の豊かさを実現します。

“Flexibility”とは、「変化に対する柔軟性」を意味する名詞で、「素直さ」「適応性」「しなやかさ」などの意味を持ちます。

「変化」とは、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代に、地域やお客さまのニーズが多様化していく状況を指します。

「しなやかさ」とは、優しさと、竹のような変化に揺れても折れない強さを持った職員が活躍する姿を指します。

行動の指針～「お客さま時間の拡充」の深化～

お客さま時間の拡充の深化とは、会う時間から**対話**の時間へ、豊富から**最好**なサービスへ、CX の提供から**共有**へ深化させ、対話を重ねて（量）、最好のサービス（幅）により、顧客体験を共有（質）することで生まれる強いつながりを指します。

お客さま時間の深化＝対応の量（対話）×対応の幅（最好）×対応の質（共有）

1　対応の量（Mass）

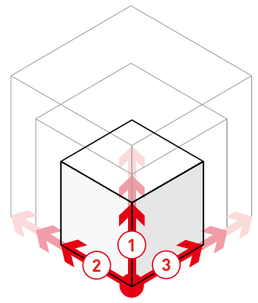
お客さま接点の対話の機会（数、時間）
※接点の時間から「対話」の時間へ

2　対応の幅（Width）

お客さまに合わせた最好の商品・サービス
※豊富から「最好」へ

3　対応の質（Quality）

お客さまが感動するレベルでの顧客体験の共有（CX）
※提供から「共有」へ



3DCR：3Dimension Customer Relationship

行動の指針～「チャレンジ＆ビュー」～

現状を突破し、新たな組織へと変革していくために、従来の前提、枠組み、制約条件を超えた考えに基づいて高い目標に挑みます。そしてそこで得た体験をもとに新たな視点・思考に基づいた発想や展望から、さらなるチャレンジへと進んでまいります。

イノベーション＝ チャレンジ× ビュー

1　チャレンジ（挑戦）

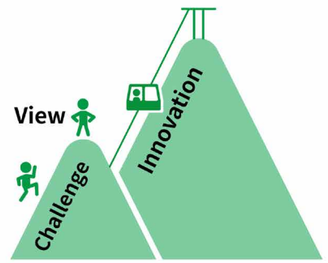
過去の経験や習慣の延長での試行（トライ）を超えて、従来の枠組みや制約条件を超越した考えで高い目標に挑むこと

2　ビュー（鳥瞰・展望）

チャレンジによって得た体験をもとに鳥瞰（チェック）し、新たな視点・思考に基づいた発想や展望を導くこと

3　イノベーション（変革）

チャレンジとビューを深めることでPDCAによる管理（コントロール）から、変革（イノベーション）へと進化させていくこと



行動の指針～変革への道標～

「しなやかに寄り添う」波紋を、職員、お客さま、地域へと広げシェアの拡大を図ってまいります。

業績ハイライト

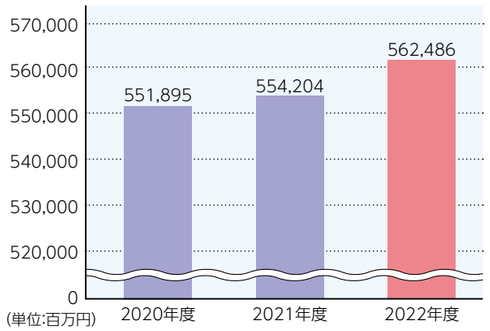
事業方針

当金庫の行動指針は「お客さま時間の拡充」を図り、お取引先との間で「心のメイン化」を構築することです。よって、"Face to Face"という信用金庫の原点を意識した活動を大切にしております。

2023年度は新中期経営計画「Flexibility」の初年度です。前中期経営計画の行動指針である「お客さま時間の拡充」を「深化」させると同時に「チャレンジ&ビュー」の精神でより高い目標に挑み、地域に密着した信用金庫であり続けることを目指してまいります。

業績

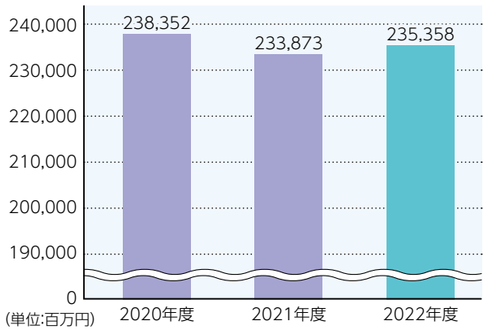
預金積金



預金積金残高　5,624億円

2022年度の預金積金は、個人取引先・法人取引先ともに要払性預金を中心とした残高が伸長いたしました。年間を通しての預金推進活動により、期中平均残高、期末残高ともに前期比で増加いたしました。

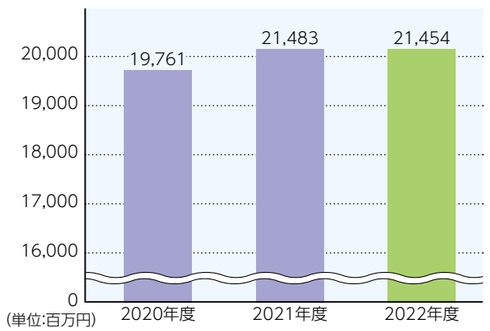
貸出金



貸出金残高　2,353億円

貸出金については、資源価格や物価の高騰による影響を受けられたお取引先の資金繰り支援を通じて地域経済の安定に資する活動を行いました。期末残高は前期比で増加しましたが、期中平均残高は前期比で減少となりました。

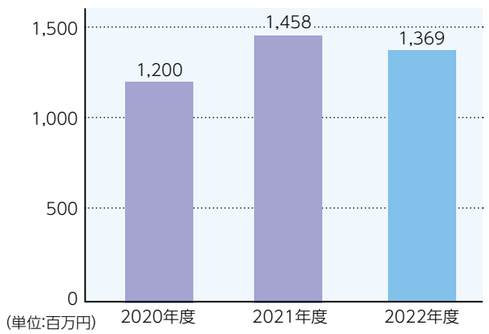
預かり資産



預かり資産残高　214億円

お客さまの資産形成に資することを目的として継続的な活動を行っております。
2022年度の預かり資産残高は、前年とほぼ同様の214億円となりました。

当期純利益



当期純利益　13億69百万円

収益面では、インフレ基調に伴う日本銀行の金融緩和策の一部見直しなど、近年においては動的な金融環境でありましたが、計画値以上の最終利益を確保することができました。

主要な経営指標

経費の削減などにより経常費用が減少しましたが、不安定な市況が続いた影響もあり経常収益が前期比で減収となり、経常利益は前期比3億76百万円減益の18億46百万円でありました。金融機関における本業の収益性をあらわすコア業務純益については、同3億20百万円減益の13億49百万円でありました。

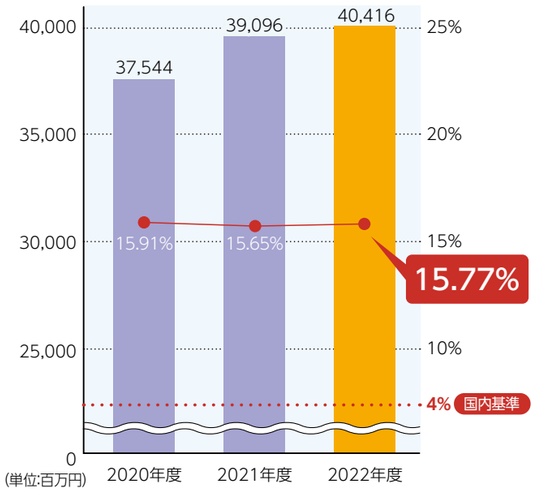
項　目		第69期 (2018年度)	第70期 (2019年度)	第71期 (2020年度)	第72期 (2021年度)	第73期 (2022年度)
経常収益	(千円)	8,115,780	8,452,541	8,964,569	9,509,348	9,116,245
経常利益	(千円)	1,454,931	1,512,635	1,768,259	2,222,629	1,846,198
当期純利益	(千円)	1,011,377	993,021	1,200,937	1,458,914	1,369,701
出資総額	(百万円)	705	701	701	701	699
出資総口数	(千口)	7,056	7,014	7,010	7,015	6,995
純資産額	(百万円)	40,442	35,501	42,626	42,515	38,088
総資産額	(百万円)	578,737	570,084	603,942	607,025	605,928
預金積金残高	(百万円)	530,005	528,090	551,895	554,204	562,486
貸出金残高	(百万円)	227,828	221,825	238,352	233,873	235,358
有価証券残高	(百万円)	265,304	263,942	291,314	291,597	287,156
自己資本比率(単体)	(%)	14.65	14.79	15.91	15.65	15.77
出資に対する配当金 (出資1口当り)	(年%)	4	4	4	4	4
役員数	(人)	11	11	13	13	12
うち常勤役員数	(人)	8	8	9	9	8
職員数	(人)	402	413	422	452	455
会員数	(人)	26,116	25,898	25,805	25,502	25,150

※金額は単位未満を切り捨てて表示してあります。
※「自己資本比率(単体)」は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために金融庁長官が定める基準に係る算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

自己資本比率の状況

自己資本比率は「リスク資産」に対する「自己資本」の割合を示したもので、お客さまからお預かりしている大切な預金が保護されるための、金融機関の経営体質の健全性を示す重要な指標です。2023年3月期における単体自己資本比率は15.77%と前期比0.12ポイント上昇しました。当期純利益の計上による自己資本の額の増加率がリスク・アセットの増加率を上回ったことが要因であり、国内基準の4%を上回る高い健全性を維持しております。

自己資本の額と単体自己資本比率



自己資本比率(単体ベース)　15.77%

◆自己資本比率の算出について

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額（出資金や利益剰余金などの合計額）}}{\text{リスク・アセット等の額の合計額}}$$

※リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)をリスクの大きさに応じて掛け目を乗じ再評価した資産金額のことをいいます。